



「動き始めた产学連携」

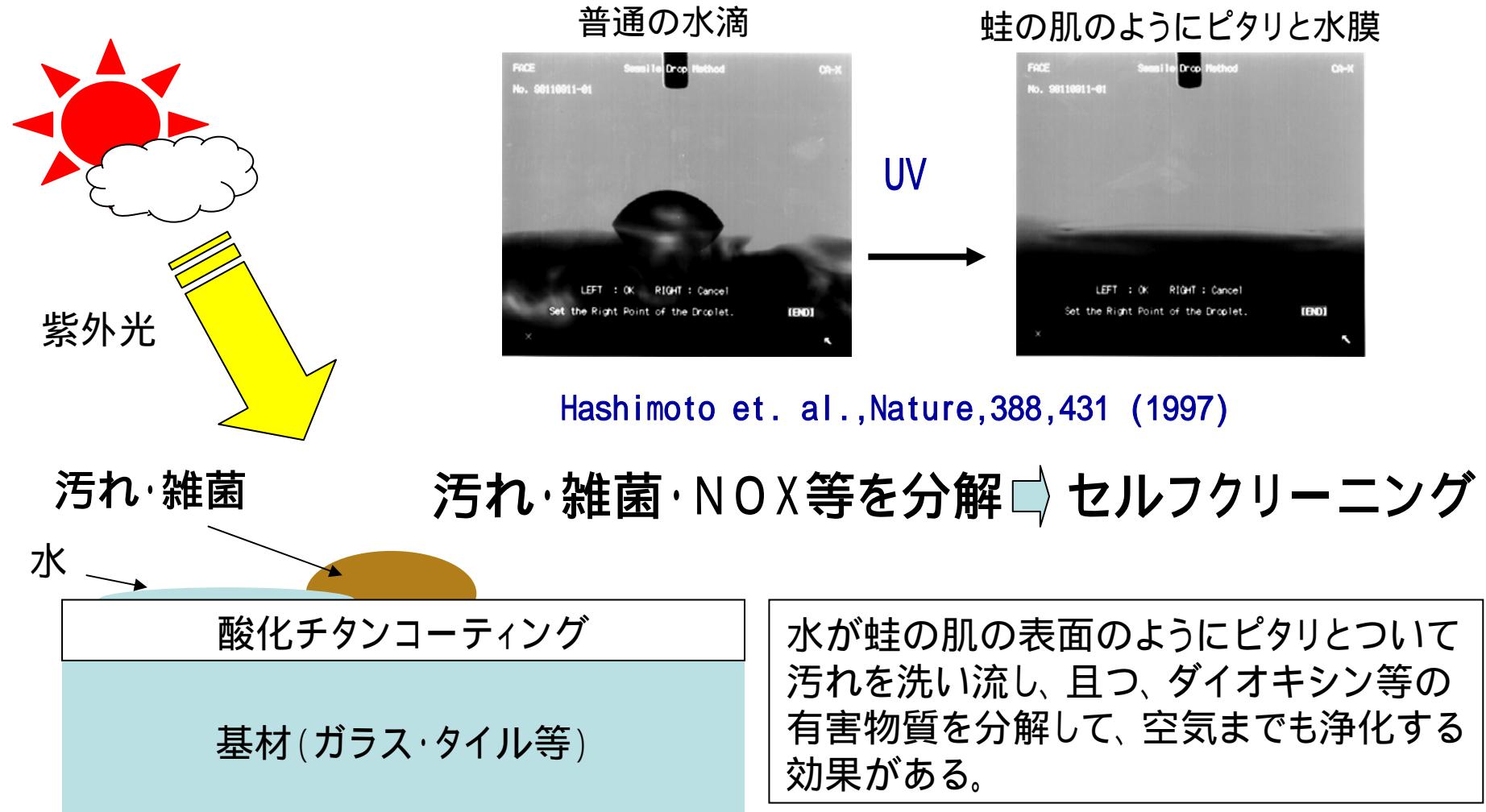
2007.3.29

株式会社 東京大学TLO(CASTI)
代表取締役社長 兼 CEO 山本 貴史

HP: <http://www.casti.co.jp>

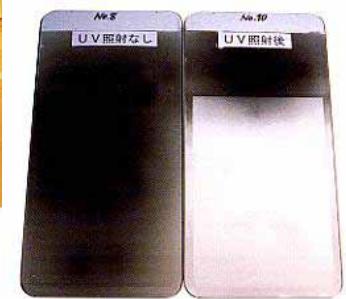
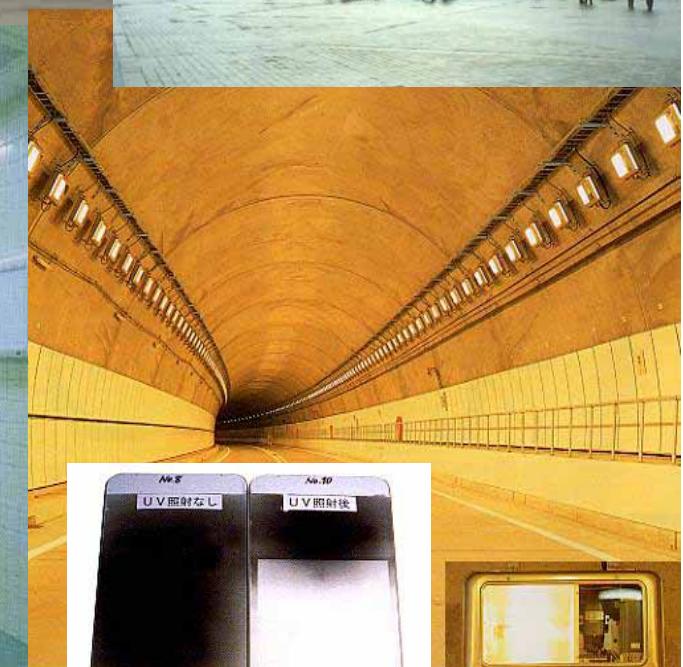
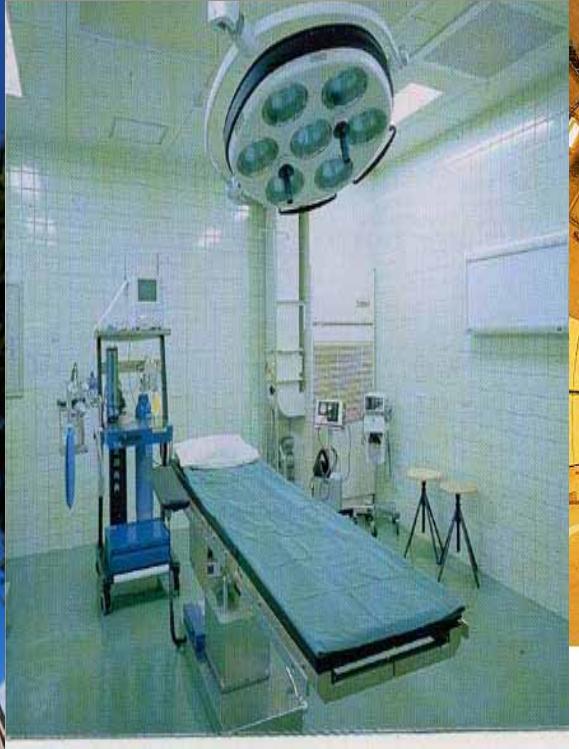
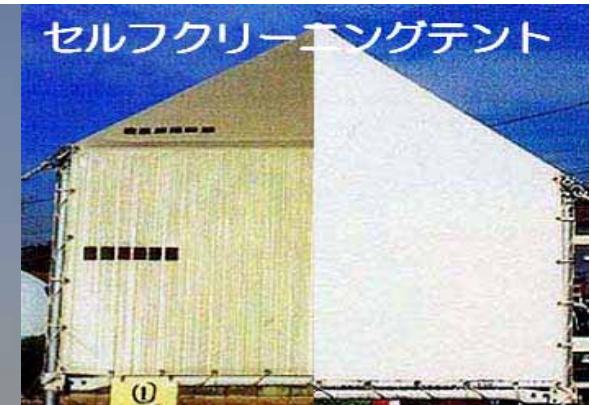
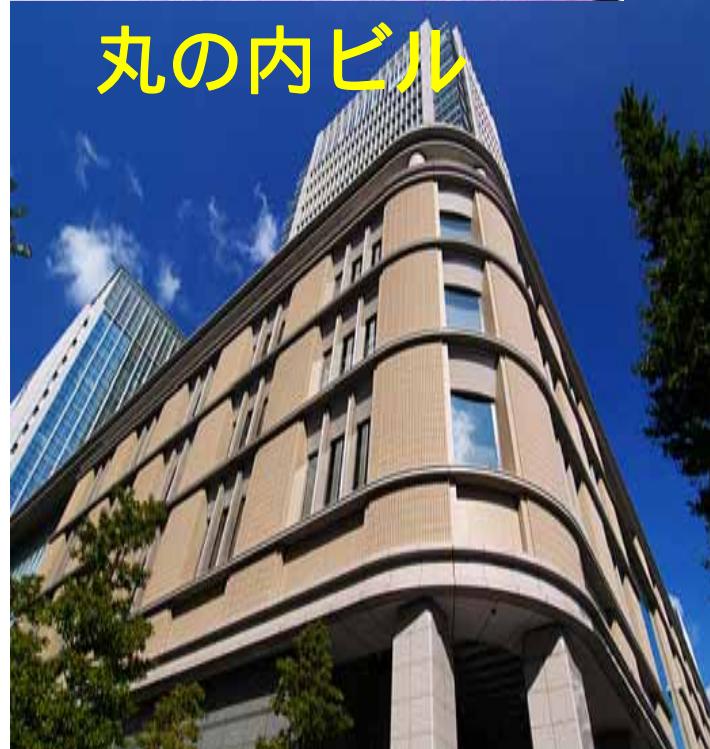
e-mail: casti@casti.co.jp

酸化チタンによる光触媒効果

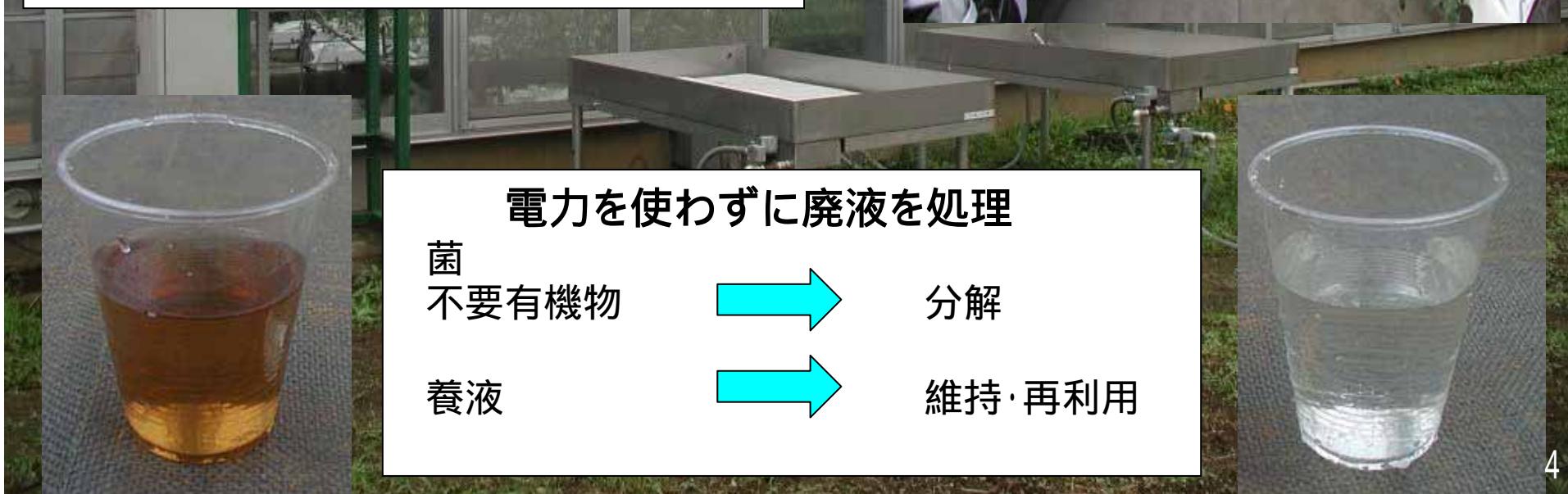
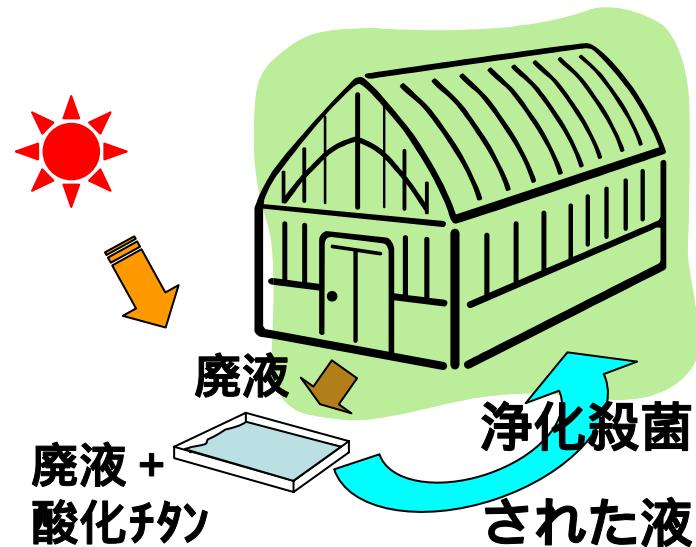




丸の内ビル



養液栽培の廃液処理

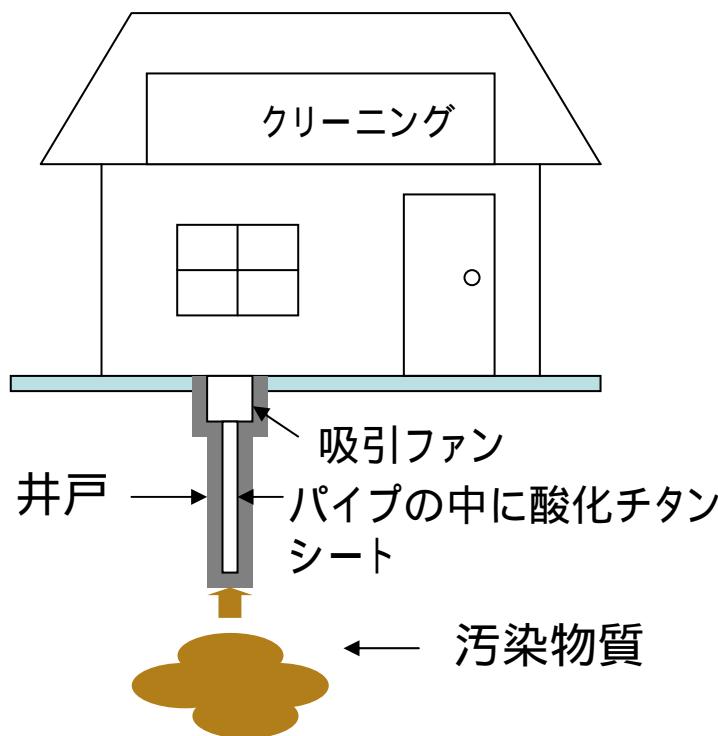


クリーニング店での土壤浄化



- ・クリーニング店舗の土壤汚染は深刻な問題
- ・更地の土壤浄化には、土地の値段ほどの投資が必要

酸化チタンによる土壤浄化システム



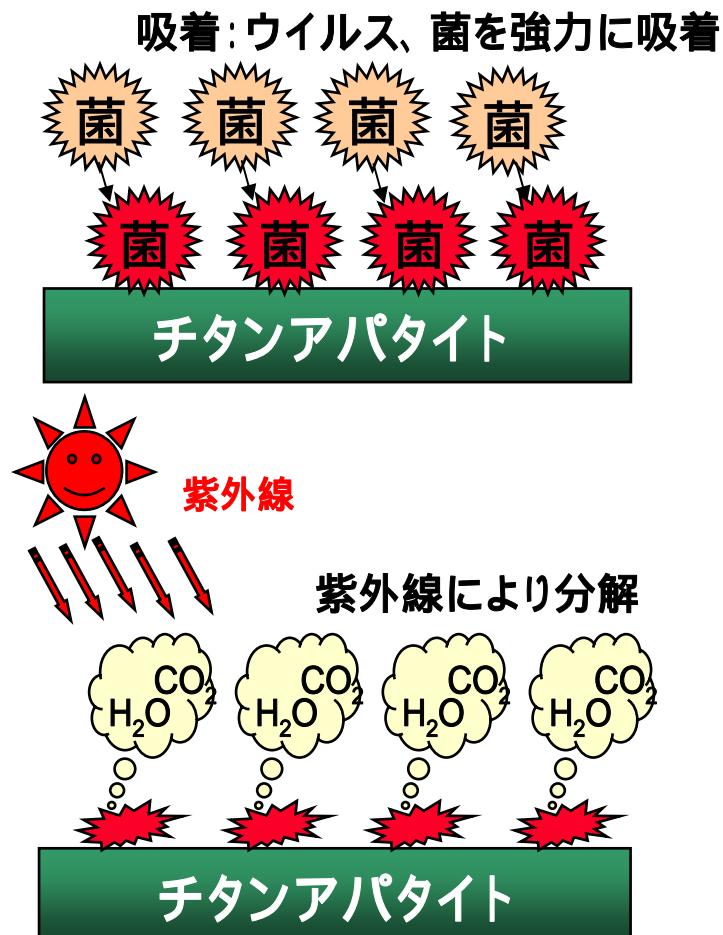
月3万円で土壤浄化
店舗を運営しながら浄化が可能

チタンアパタイトによる光触媒効果

アパタイト結晶中のカルシウムイオンをチタンイオンで一部置き換えた、新しい「光触媒物質」

特徴

- 1.酸化チタン同様の光触媒効果あり
- 2.大きな吸着力（酸化チタンは吸着力が小さい）
- 3.抗ウイルス、抗菌、抗アレルゲン効果
- 4.樹脂等に直接混合できる
- 5.親水化しない
- 6.低屈折率（ガラス上に透明な膜ができる）



产学連携はイノベーション実現のトリガー

- 酸化チタンによる光触媒効果は、東京大学の本多-藤嶋効果が元になって生まれた発明であるが、基本特許を日本企業と大学が押さえることにより、この技術が国際標準となっている。今回の技術は、その発展系である。
- 様々な社会問題を技術革新で解決し、知的財産を押さえる事が日本の競争優位を実現する。
- 東京大学は、日米の全ての大学の中で、単体の大学では、2004年の発明開示件数は1番である。
- 【集知済世】 知識を結集し社会に貢献することが重要。
- そのトリガーは产学連携の推進。